



106
1

二
文
卷一八九

百
六

文明十八年十一月

寺社雜事記
附院家
大僧正寺務維摩會事

御内閣書類
御内閣書類

御内閣書類

御内閣書類

百

文
明
大
典
卷
之
六
六
十六

十六

寺社雜志 付後家
卷之六



大
金
本

大
金
本
卷
之
六
十六

一長春同中

一義龜之禪中

一菩薩妙法蓮華經解說卷第十二

一圓通相應中

一喜空三藏中

一佛說華嚴經

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

106
5
W. H. Miller

卷之二

卷之二

一
得
二
王
浦
三
林
學
四
予
井
五
清
江
六
人
法
七
之

後漢書卷之三
上元廣德
魏武帝

卷之三

2. *Chrysanthemum*

卷之三

上清之音非其聲也

一
東
漢
王
充
論
衡

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

W. C. L. - 1870

國

1067

卷之三

三

各事務所敷居平定ノル、御殿御内院
主膳御内院御内院御内院御内院御内院

一
水色多山

國立公文書館

馬鹿の事は馬鹿の事

のやうな事は二年半半

の事は二年半半

代りに前半

金壁、おせかの上

おれが九名寺の事は
見て内す。軍が九名寺をもとめ
げゆ。たゞ

古事記原典

106
8

まへる事で御心とて、うの暮れやあ
おもつてゐるゝは、うむむむむむむ
おもつてゐるゝは、うむむむむむむ

19

三

卷之三

得失之念。不復有爲。故其後
事。皆以爲人所制。不復能自
取。此固爲天子也。故曰。天子
之氣。沛然。不可止也。

王安石
字子瞻
號東坡居士

清江子曰
曉風殘月
三更雨
此景何如

106
9

國朝之時，有王生者，家世富，好學。其子某，不識書，不知讀，但好游。某之父，常以爲子不學，必無成。某之母，常以子不學，必無成。某之母，常以子不學，必無成。

古

一
酒
引
子
火
之
水
年
春
小

一
事事すとよしとおもひにあらざる也
一
此處の所はさうじへりうる同様れど
一
ト事は月の及ばず事なり事
一
事事すとよしとおもひにあらざる也
一
此處の所はさうじへりうる同様れど
一
ト事は月の及ばず事なり事

一
而過半也。其後日寢人
多是。未嘗不將軍長安。因
之。而後歸。二十二年。方返。至
此。始知其所以然也。

卷之三

106
10

三

一束

卷之三

一過一會也甚是好

一
卷之三
四
五

卷之三

一
神代うねりの元氣をもつて人間
さういふ事はあつたが、一見の事

卷之二十一

四十九
御内閣書院の事務に參りて之をもつて
若君の封工に並んでその成績
の如きは大いに評判をもつてゐる

一
今既暮ニテ正也ニテ拘リ又十九
川ヨル又保ニナル鳥ニミ是夜市ノ以處
内見キ大物在モ猶活ニシムシテ油り一
内見キニモトソロサニテ少々アリテ
内見キニモトソロサニテ少々アリテ
後ノ事ノ爲事カリナリナリトヨリテ其事ヌ

自古至今未有之言矣。余之平生
一至不妄而无犯。一内无二主。

松子洋也。彦田。今津也。而。而。

松子同。而。數打。ノ。江。

一
翁。少。明。氣。未。能。能。中。圓。力。渾。事。松。老。
一
此。不。是。の。主。は。之。有。意。見。此。之。老。
大。入。參。言。五。山。生。圓。氣。相。多。能。老。
二。月。太。祖。一。

十日

一
粥。丸。烹。

一
宿。歸。後。方。行。才。不。盡。之。參。遊。

十一

一
過。一。歲。平。也。

一
酒。可。使。車。外。多。向。者。以。君。而。而。而。
一
此。風。也。未。之。有。向。者。而。而。而。而。
此。是。而。字。而。字。而。

一
持。年。

一
往。方。持。之。行。至。而。裏。沙。中。門。一。之。持。年。
二。月。太。祖。一。

106
12

「おめでたす」の事があつて、一筆くわ
ば書きこゝに記入しておいた所と云ひ
それが別判判をもつてして作成し得る
ことは事実である。元一筆のタリをふ一筆
の文、又は二筆の文等が書かれてゐる所
を寫す。筆跡は筆の運びがよく見て取
れる。筆の運びがよく見て取
れる。

之者
坐不以人代者作其事乃有辱焉
今力之多非徒大，而不如天子行
之者，于事不無失也。此皆所以爲

卷之三

功
考

此物之有也

106
13

卷之三

十一

一
卷之二

一
著者是某人好力
讀者是某人
時序是某年某月某日
題名是某書

自古清、元蒙人多懷舊。如
張子房、何平叔、荀子安、周易
等。

志也。猶如布帛之織，多者能成。

一寺寺僧の事の寺の寺僧

也。故其事
亦復如是。而
其子也。今
又復生也。

水のあまきの手すり
木の上に立つて

通す

一 里事節大手を書と申せし候
の事也

一 下に下り候事も精意を以て
聞聞事多矣

之

亦

一 今朝もあ

一 三月既半を以て三月

大

一 物事は方々事多く是事不思議

事也下様に上事候事也是事
事也是事也是事也是事也是事
事也是事也是事也是事也是事
事也是事也是事也是事也是事
事也是事也是事也是事也是事

四

書を済す。○書中、○の高
清上と云ふ。○又云作三
張の事。○又云三面の事。
月刊の事也。

一
三種の本無、四種の本也。一書
加筆本也。序文有り。著者もあら
ゆる人等也。○又云作三
張の事。○又云三面の事。
月刊の事也。

書の後題也。○書中、
不落堂上と云ふ。○又云作三
張の事。○又云三面の事。
月刊の事也。○又云作三
張の事。○又云三面の事。
月刊の事也。

卷之三

卷之三

106
15
插入錄

卷之三

卷之三

卷之三

喜
秋

三

卷之三

卷之三

四

十言

墨舞事極不至
日深作事多失
至

大筆舞此能

強請

十言

一成事

一箇月裏方々之食之於

十六

謂之食之於

謂之食之於

謂之食之於

謂之食之於

謂之食之於

卷之三

106
17

萬葉集
卷之三
歌
三
物
之
事
物
之
事

同書每字皆有注釋也。但今本以七八句為一

自子もれ。過上二國。二國事也。了
御。御事也。大都。大都。一。大都。大都。
御事也。大都。御事也。御事也。御事也。
二。事也。考。御事也。侍。御事也。事也。
事也。一。大都。大都。大都。大都。大都。
不。大都。大都。大都。大都。大都。大都。大都。
大都。大都。大都。大都。大都。大都。大都。

十一世。新井。新井。新井。新井。新井。新井。

一。新井。新井。新井。新井。新井。新井。新井。

新井。新井。

一。新井。新井。新井。新井。新井。新井。新井。

一。新井。新井。新井。新井。新井。新井。新井。

新井。新井。

嘉定元年二月用うきつて家主モ
御行向ひり候。也者將近行
候し一參、吉部源氏。也者將近行
上也者於至三日内宿行也。是を
未申ル事す。也者未申ル事。捕制也
ト。捕制也。同日行不可有事。之
と。之が嘉定二月用うきつて家主
前。庄言。今。此。二。下。の。家
事。未。未。見。バ。多。か。也。

一
也者未申ル事。也者未申ル事。也者
未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。
也者未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。

一
事未申ル事。也者未申ル事。也者未申ル事。

也者未申ル事。

106
20

正月の御内記

جبل عالي ٢٤٠

1

以爲是人之性也。故曰：「吾生也有涯，而知無窮。」亦猶水也。水則無窮，故謂之無窮也。故曰：「吾非好知。」

前竹道長持出合七三事

付人

諸事考定書事奉者、此猶役器甚
往來事自知、不復作事是十事之件

予出此付各事奉者、其事奉者

名同元御

並據下机ニ通取

太倉一水送取事

事用其

奉事方壁

稀見事、其事奉者

ノ今後石を之所ニ水ノ一水ノ二水ノ

火氣油煙等々、其事奉者

其事奉者

事奉者

106
24

106
24

Ruth

120

一

106
25

中
國
文
字
書
法
概
論

1875-22

卷之二

卷之三

106
26

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

一墨山 サラ

育室上卷

二弓を言ノサト

弓 ヴニカサ

三弓を言ノ多タニミタ

三弓外ノ

金十七石三斗四升六合

分一石可外

金十七石三斗四升

一 箱が早山津角山と津詠山と打子
多岐山と高木山と

一 金山大矢井布アリ氣ウニテ留め古
多岐山と高木山と打子山と

廿

一 植木山と高木山と腰山と高木山と
多岐山と高木山と打子山と
人森山と高木山と腰山と高木山と
咲津山と津詠山と白石山と
多岐山と高木山と打子山と白石山と

106
29

A vertical decorative illustration on the right margin of a page. It features several thin, dark, branching stems or twigs. Some of these stems have small, delicate flowers or leaves at their tips, while others are bare. The style is minimalist and organic, typical of traditional book decorations.

一
唐文公行書卷之二
公德四
一
般
卷之二

卷之二

かく書く今解せん
叶ふ事多し是れか一枝の事
皆が審めらるゝ事は何ん事
其事不思議也御前より御内
にあらずす御内御内御内御内

丹
文

一善事者是先本心所生之時
一惡事者是後悔後所生之時
一財事者是財物所生之時
一色事者是色相所生之時
一聲事者是聲音所生之時
一無表事者是心外無所有事

106
30

國立公文書館
National Archives of Japan

卷二

用子之主。我亦弗能。毒之流也。其無歸乎。
京兆尹。漢人也。後下獄。上之。卒無所
濟。後又三日。死。

諸君之書立以為今朝晚矣

ID 6
31

主事者中之精明者多不識
有此大半不知其所以然也
則此之於人以非無益也
亦復何疑乎

主事指揮者也。主者也。督者也。督者也。督者也。

一川平遠可見井汎此多事亦少半
日暮色黑如夜也

卷之三

一
酒中初醉後
醉後復醉後
醉後復醉後
醉後復醉後
醉後復醉後

106
32

卷之三

卷之三

卷之三

21/24

卷之三

卷之三

一書一書年復一年更上層一級
一床三席大寶高下逐方舟

二月廿二日

106
33

四十九年一月廿三日早晴。其家發難。
四十九年一月廿三日早晴。

古

秀事の日本におもひ出ではすと はる室の御事ご
物ものよ無なきう事ことが多多くい
字じ元げんの外ほか見み、中なかの見みは月つきの満まん城じゆを
外ほか見みは月つきの満まん城じゆを
一三子母みやこ、一子母みやこの事ことは
一高たか野の朝あさ、高たか野の暮くろの事ことは
一源げん七しち孫そ、如ごの事ことは

牛の守松洞寺清大三月廿日より出る事
七月四日又二十六日より住ま下
中間宿泊にて御宿すかゆじておもむり度
也の事御用に於ては人を入へん
御宿泊の事御用に於ては人を入へん
今
石垣と曰ふ

一 宝源年 一月 三日 申内 あらわし
高野寺 かのうじ 寺院清命書
力也 まことや 前川清以年譜

一一 仲度年 一月 三日 申内 あらわし
此臣方下馬 仰拂 申年 三月 二日
事内 あらわし 事内 あらわし
一 五度年 一月 三日 申内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし

一一 仲度年 一月 三日 申内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし

一 五度年 一月 三日 申内 あらわし
事内 あらわし 事内 あらわし

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

106
36

14

十一

11

卷之三

一
事也無何不可。但日後務要衝和，而
一往持重，不可見之於外。一主和，則
處事更活潑，更圓通。一主急，則
主從只以人情為先，不以事理為先，一切
主客亦可。一主急，則事半功倍，一主
慢，則事倍功半。一主急，則人情更切，一主慢，則
主客更疏。

卷之三

一海之水

海國圖志

手に持てば、此の如きは、
余程の事で、おまかせする
事も出来ぬ。此の如きは、
おまかせする事も出来ぬ。
此の如きは、おまかせする
事も出来ぬ。此の如きは、
おまかせする事も出来ぬ。
此の如きは、おまかせする
事も出来ぬ。此の如きは、
おまかせする事も出来ぬ。
此の如きは、おまかせする
事も出来ぬ。此の如きは、
おまかせする事も出来ぬ。
此の如きは、おまかせする
事も出来ぬ。此の如きは、
おまかせする事も出来ぬ。

January 18th 1880. Dear Father

106
37

106
38

لـ ۱۲۰۰ مـ ۱۸۷۴ مـ ۱۹۰۰

士基為東坡所惠之筆也
士基瘦弱，其身如枯木，骨肉不附，可見
其形甚奇。其筆氣節甚高，一毫無苟且，
初到洛五年，人以其瘦，呼爲瘦士。
其後人知其才，呼爲士基。
其後人以其瘦，呼爲瘦士。

トハ御鳥のひなをめがけ放てて
成三才アリ。左の者も右の者も
皆おのづかに居まとうるおれ
此上が主邊。鷹王とぞすの法
詔の事也。五日御内河ノ御船
詔み不老。奉事也。主邊也。

1月十三日

主邊御内河ノ御船也。

庄屋御年持小ぢ老母ちりそくあは年下
御船御内河ノ御船也。御船也。御船也。
御船也。御船也。御船也。御船也。御船也。
御船也。御船也。御船也。御船也。御船也。
御船也。御船也。御船也。御船也。御船也。

一
喜多御内河ノ御船也。伊人也
御船也。御船也。御船也。御船也。

國立公文書館
National Archives of Japan

60

萬葉集卷之三
大亨四年春正月

大亨

一水只西流
送君此一觞
人生自古谁無死
留取丹心照汗青

卷之三

106
41

おもむろにとどけ

吉

事務法 計算表上出事務者主事

以降事務者主事者

大義郎子

豊前守

106
42

竹尾島の私事の爲め此日之に
至るまでに至りて刻々汚泥
の如き風化の所へ向ふ
御用度半々向ふ人間の如く
大有貴財の如く一毫も無
れぬ如きの如き事にて
其の如き事にて是を以て入上二又

平生多事

父某

第何事無下まかし

今後所爲也

大義郎子

河内方止と申す事は
大義郎子

大義郎子

一

支那事記

支那事記

一 戊午年正月廿二日

支那事記

1064

國立公文書館
National Archives of Japan

卷之三

其事與此同也。故曰：「方正之謂大，圓周之謂小。」

W.M. C. 1862

卷之三

一
萬國皆知中國爲大國也

وَلِمَنْدَلْتَهُ وَلِمَنْدَلْتَهُ
وَلِمَنْدَلْتَهُ وَلِمَنْدَلْتَهُ

一往來游此可也。漁人不

其事也。蓋一丸之
得失，則人情之
變革，亦隨之而
生矣。

故其後人之爲也。蓋其時成化之書，亦已多矣。故其後人之爲也。蓋其時成化之書，亦已多矣。

卷之三

卷之三

卷之三

廿六

一月二日(火)

一新居院、小室家、平成年三月

一達子野田上原

一羽津屋井水用事止の第一而前

一氣合村、吉田、秋不見

一酒一茶(火) 1月2日

一酒一茶(火)

一多木人(火)

一多木人(火)

一内門舞(火) 1月2日

一多木人(火) 1月2日

106 44

一 墓碑文

草書

一 諸侯等

106
47

106 48
201

一 足利守 石山 田代守 畠山人 章
花山院 まつはら さかわ

一 庄内守高田景定 横山大輔相馬守
源氏景定

一 佐野景勝 沢田景定 岩村景定
美浓守 佐野景定 佐野景定

一 佐野景勝 沢田景定 岩村景定

一 佐野景勝 沢田景定 岩村景定
日向守 佐野景定 佐野景定

一 将田景定三景定

井

一 佐野景勝 沢田景定 岩村景定
高麗守 佐野景定 佐野景定

一 佐野景勝 沢田景定 岩村景定

井

一

此處ノ事事多々の事人等
其處也男等被思
而爲之者也又小口以於ニテ又ト上
シテ是事亦云可矣

*六十九首傳 燕子歌

一高木高木高木高木高木高木高木高木高木高木

風只草月月月月月月月月月月月月月月月月月月

一言木言木言木言木言木言木言木言木言木言木言

一長毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

一獨り想早木人木人木人木人木人木人木人木人木人

一少少少少少少少少少少少少少少少少少少少少少

家

三

家

高麗書

大正二年九月三日

五言
大正二年九月三日

高麗書
大正二年九月三日

106
52

二十六日
大和守
三十六日
主事
三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事

三十六日
主事